

令和 7 年 度

県 政 世 論 調 査

概 要 報 告 書



2 0 2 5



静 岡 県

目 次

調査の概要	1
-------------	---

生活についての意識

1 暮らし向き	2
2 日常生活の悩みや不安	3
3 静岡県の住みよさ	4

県の仕事に対する関心

4 県政への関心度	5
5 行政機関への意見や要望、不満	6
6 広報媒体の浸透度	8
7 日常の課題や生活における意識	12

主要施策調査

8 次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）に関する意識	23
9 多文化共生に関する意識	24

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活や県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 主要施策調査

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (3) 標 本 数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布（郵送及びWEB回収）
- (6) 調査時期 令和7年6月10日～6月30日
- (7) 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

	18歳以上の推定人口（※）	標本数	有効回収
東 部	976,274	996	517 (32.9%)
中 部	942,063	948	496 (31.6%)
西 部	1,058,521	1,056	559 (35.6%)
全 県	2,976,858	3,000	1,572 (52.4%)

※選挙人名簿登録者数（令和7年4月21日時点）

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを100%で表した。「SQ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
- 3 標本誤差に応じて集計値を補正している。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数（n=1,572）に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため報告書のグラフ等においては回答者数（n）を表記していない。

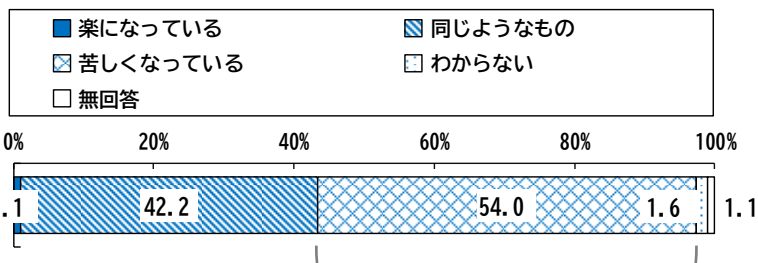
生活についての意識

1 暮らし向き — 「苦しくなっている」は54.0%

Q1	お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。(○は1つ)
SQ	お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由は何ですか。(○は3つまで)

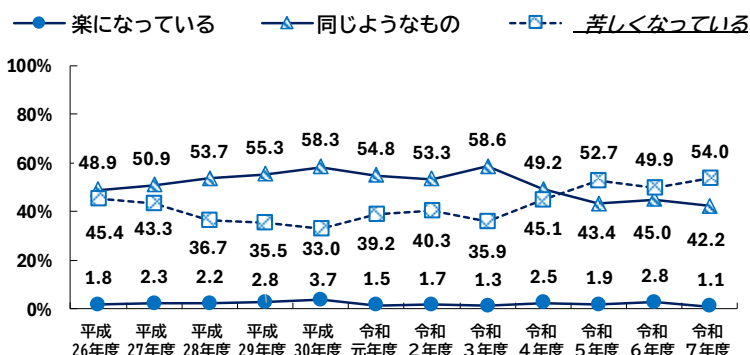
暮らし向き

- 「苦しくなっている」と回答した人の割合が54.0%と最も高く、「同じようなもの」の42.2%を上回っている。



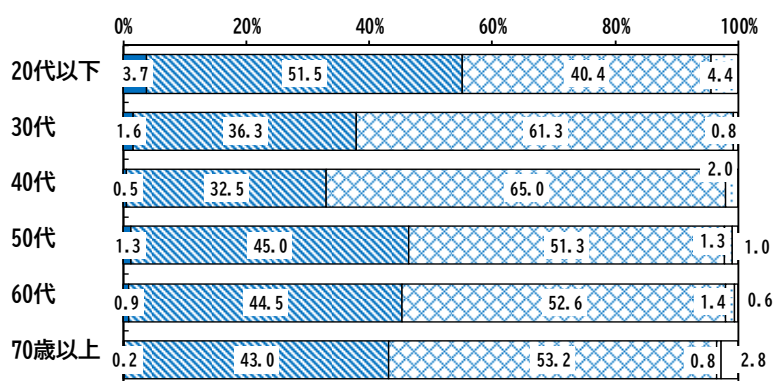
経年比較

- 「苦しくなっている」人の割合は、今年度は54.0%（前年度比+4.1ポイント）と2年ぶりに5割を超えている。



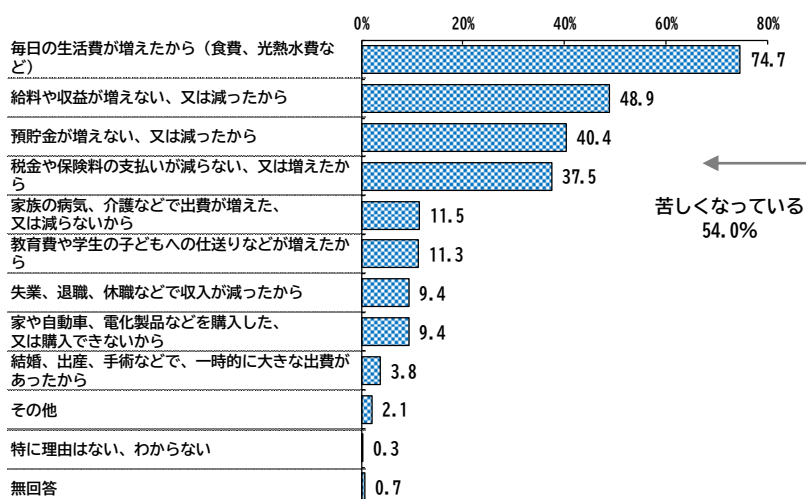
年代別

- 30代以上のすべての年代において、「苦しくなっている」と回答した人の割合が「同じようなもの」を上回っている。
- 「苦しくなっている」人の割合は、『40代』（65.0%）が最も高く、『20代以下』（40.4%）が最も低くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

- 「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」（74.7%）が最も高く、以下「給料や収益が増えない、又は減ったから」（48.9%）、「預貯金が増えない、又は減ったから」（40.4%）が最も高く、『40代』（65.0%）が最も高く、『20代以下』（40.4%）が最も低くなっている。



2 日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人は77.4%

Q2

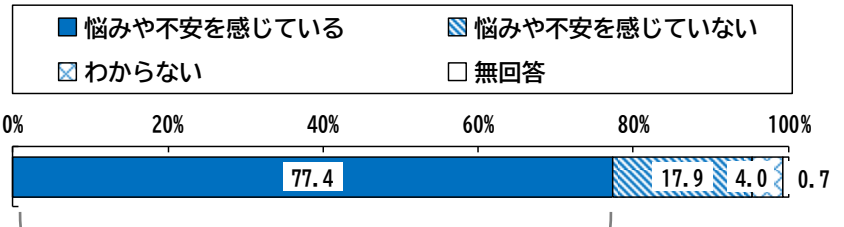
あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。(〇は1つ)

SQ

悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

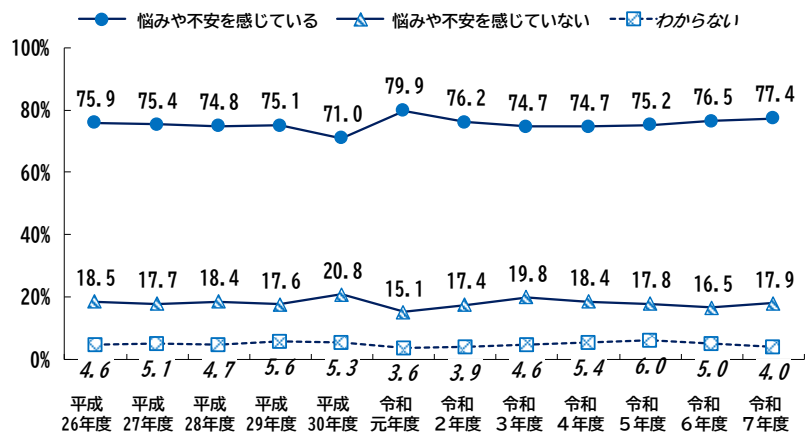
日常生活の悩みや不安の有無

- 「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は77.4%、「悩みや不安を感じていない」は17.9%だった。



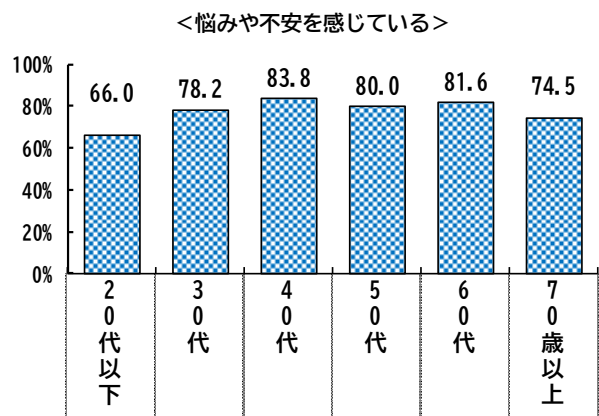
経年比較

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成26年度以降、7割以上で推移している。



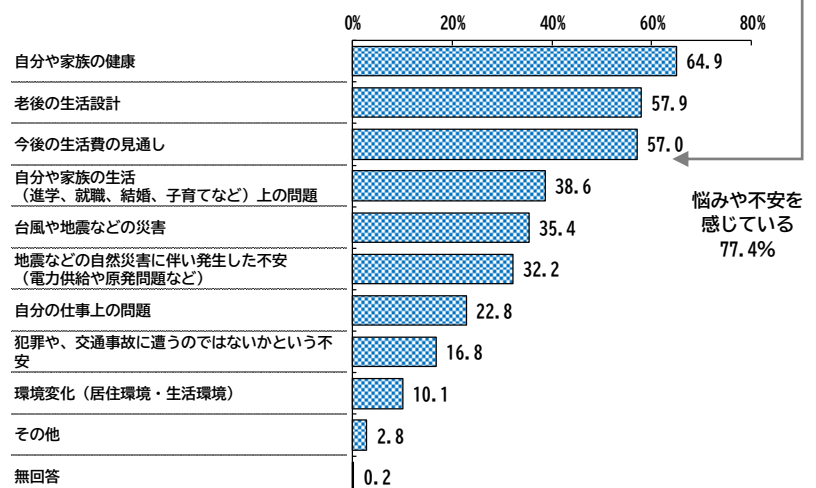
年代別

- 「悩みや不安を感じている」人の割合を年代別にみると、『40代』(83.8%)が最も高く、『20代以下』(66.0%)が最も低くなっている。



SQ 悩みや不安の内容

- 「自分や家族の健康」(64.9%)が最も高く、以下「老後の生活設計」(57.9%)、「今後の生活費の見通し」(57.0%)などとなっている。



3 静岡県の住みよさ — 住みよいところだと「思う」人は89.0%

Q3	あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(○は1つ)
SQ	あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(○は3つまで)

静岡県の住みよさ

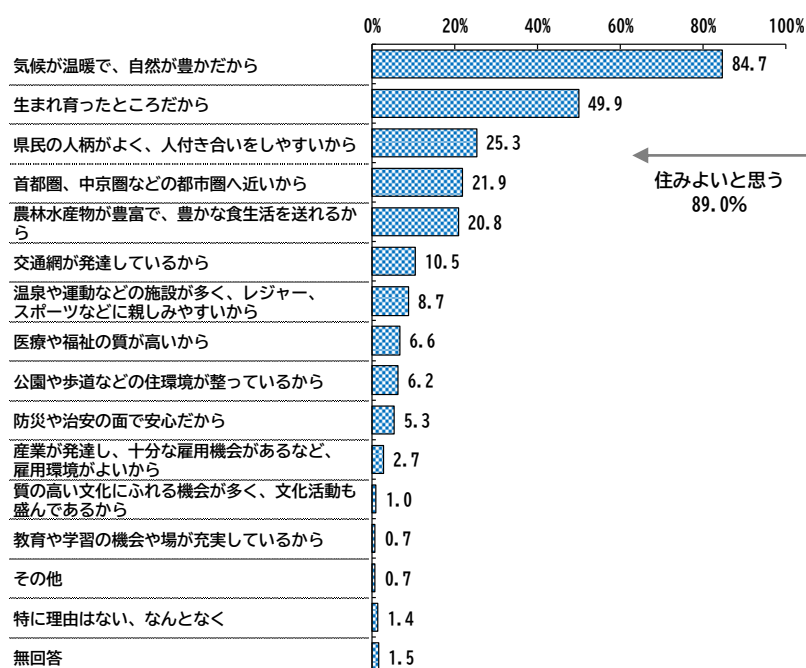
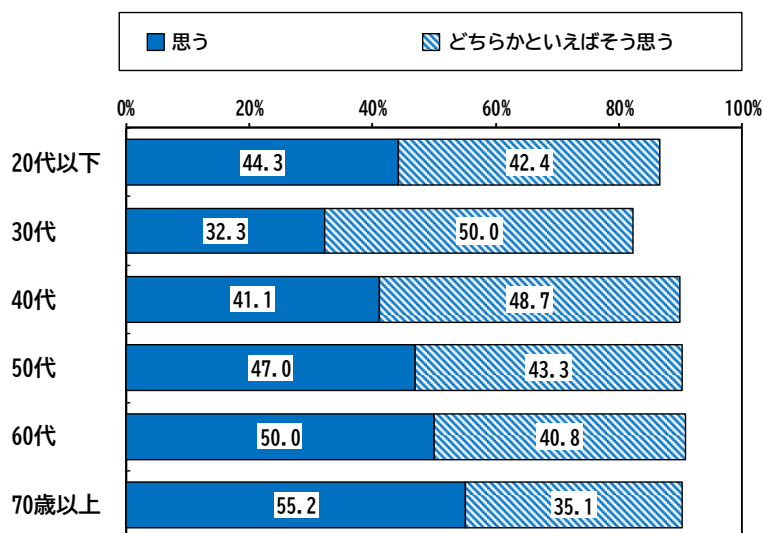
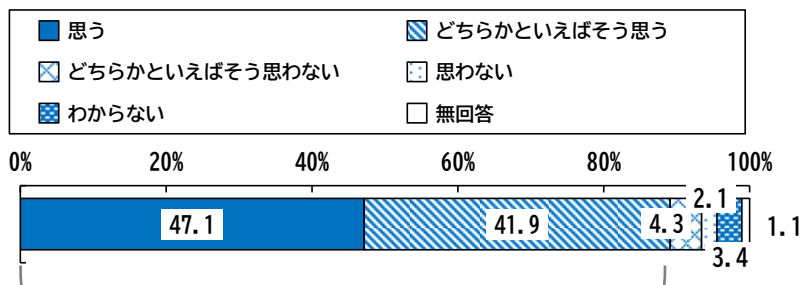
- 静岡県は住みよいところだと“思う”人のほうが圧倒的に高く、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”が89.0%、「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”が6.4%となっている。

年代別

- 『70歳以上』は「思う」(55.2%)と「どちらかといえばそう思う」(35.1%)を合わせた“思う”が90.3%と高い一方、『20代以下』でも86.7%が“思う”となっている。

SQ 住みよいところだと思う理由

- 「気候が温暖で、自然が豊かだから」(84.7%)が最も高く、以下「生まれ育ったところだから」(49.9%)、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」(25.3%)などとなっている。



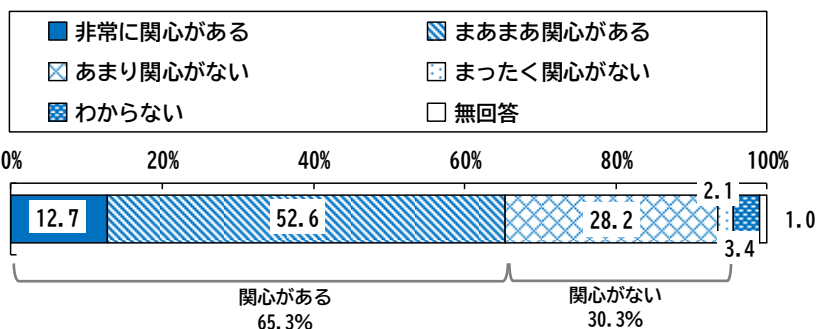
県の仕事に対する関心

4 県政への関心度 — 「関心がある」人は65.3%

Q4	あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(〇は1つ)
SQ1	県の政治や行政に関心がある理由はなんですか。(〇は1つ)
SQ2	県の政治や行政に関心がない理由はなんですか。(〇は1つ)

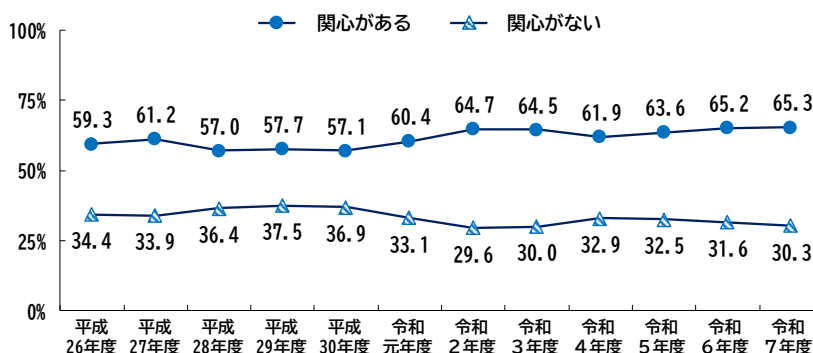
県政への関心の有無

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”は65.3%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”は30.3%となっている。



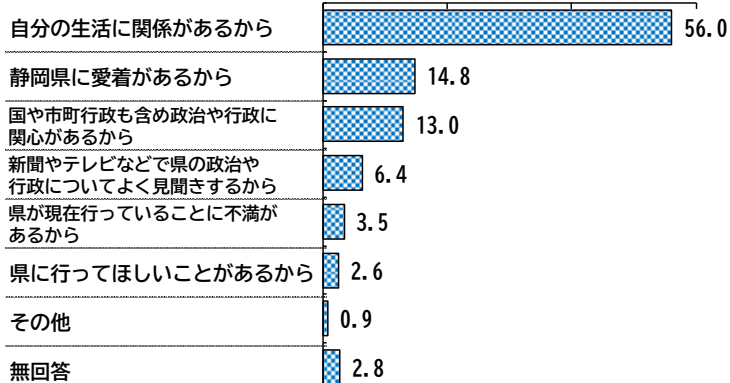
経年比較

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”の割合は毎年度6割前後で推移している。



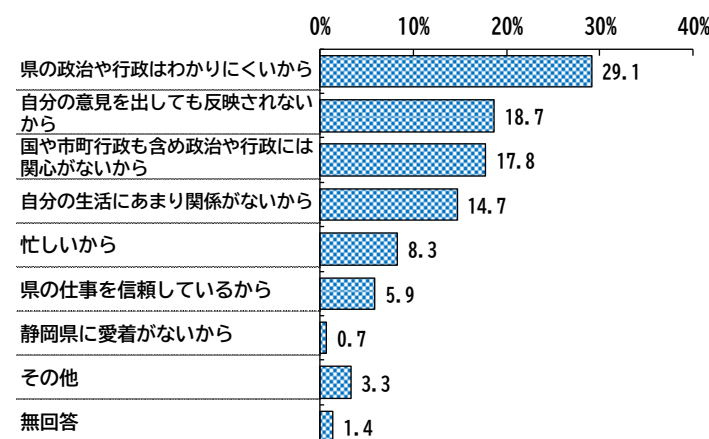
SQ1 県政に関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」(56.0%) が最も高く、以下「静岡県に愛着があるから」(14.8%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」(13.0%) などとなっている。



SQ2 県政に関心がない理由

- 「県の政治や行政はわかりにくいから」(29.1%) が最も高く、以下「自分の意見を出しても反映されないから」(18.7%)、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」(17.8%) などとなっている。

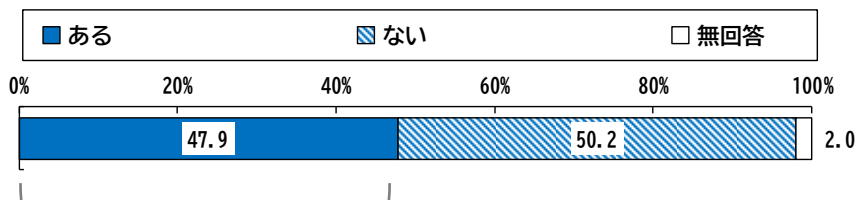


5 行政機関への意見や要望、不満 — 意見が「ある」人は47.9%

Q5	あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)
SQ1	それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)
SQ2	その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたか。(〇は1つ)
SQ3	それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)
SQ4	どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)
SQ5	意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由はなんですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)
SQ6	どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)

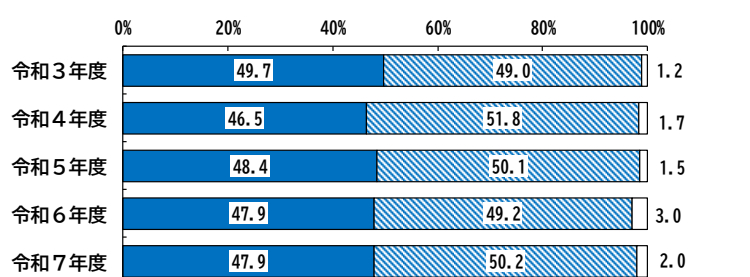
行政機関の意見や要望、不満

- 「意見等がある」と回答した人の割合は47.9%、「意見等がない」は50.2%となっており、「意見等がない」の割合が高くなっている。



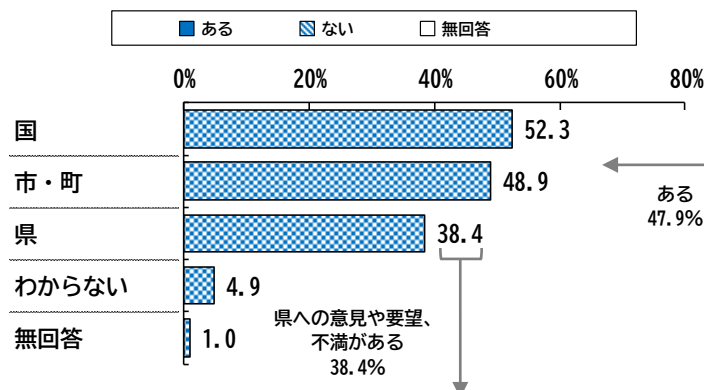
経年比較

- 「意見等がある」の割合は、毎年度4割台で推移している。



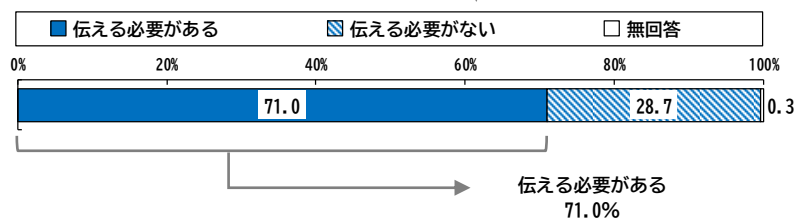
SQ1 担当行政機関

- 「国」(52.3%) が最も高く、以下「市・町」(48.9%)、「県」(38.4%) となっている。



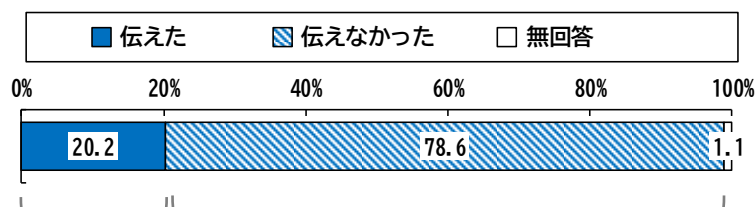
SQ2 伝達の必要性

- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は71.0%、「伝える必要がない」は28.7%となっている。



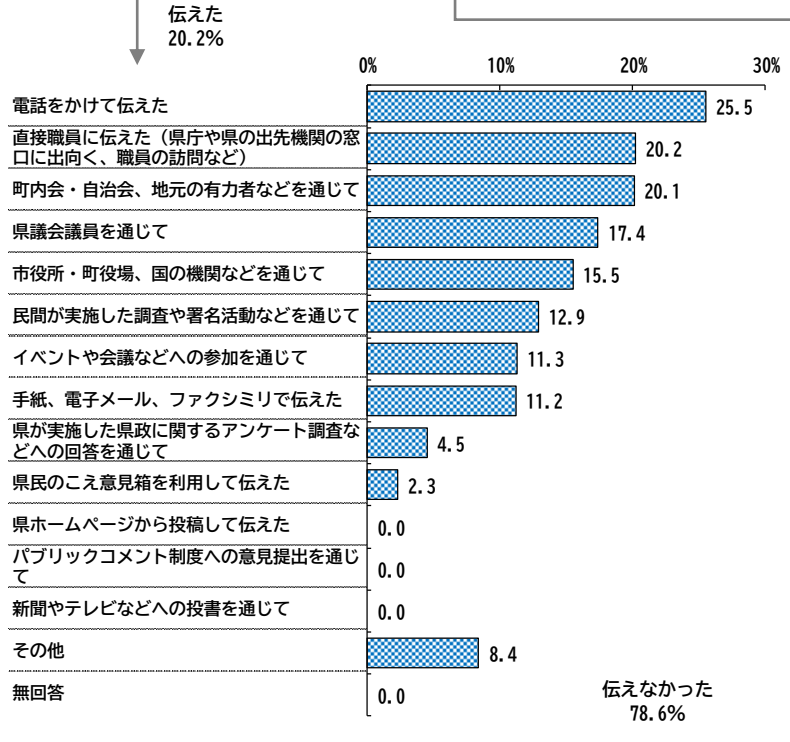
SQ3 伝達の有無

- 県に「伝えなかった」と回答した人の割合が78.6%と大半を占め、「伝えた」は20.2%にとどまっている。



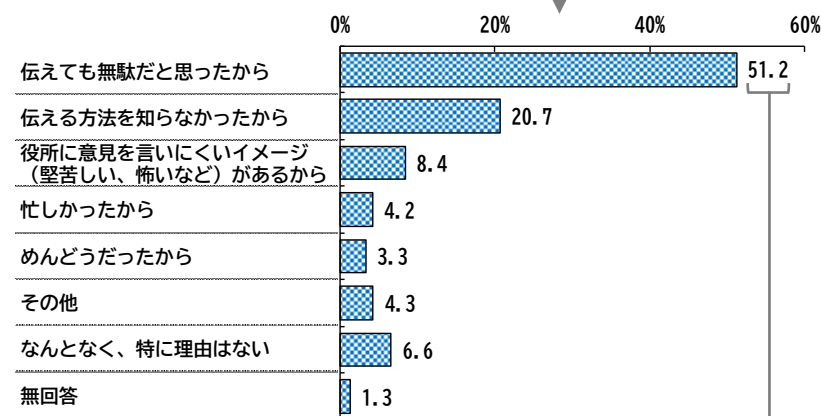
SQ4 伝達方法

- 「電話をかけて伝えた」(25.5%)が最も高く、以下「直接職員に伝えた(県庁や県の出先機関の窓口に出向く、職員の訪問など)」(20.2%)、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」(20.1%)、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」(20.1%)などとなっている。



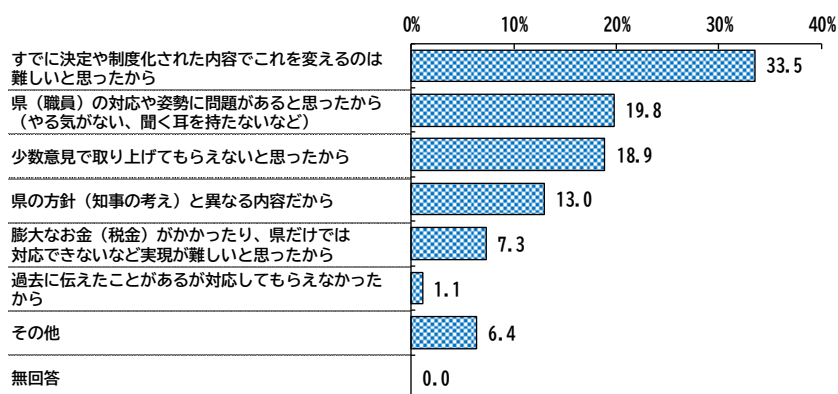
SQ5 伝達しなかった理由

- 「伝えても無駄だと思ったから」(51.2%)が最も高く、以下「伝える方法を知らなかったから」(20.7%)、「役所に意見を言いにくいイメージ(堅苦しい、怖いなど)があるから」(8.4%)などとなっている。
- 「なんとなく、特に理由はない」は6.6%となっている。



SQ6 伝えても無駄だと思った理由

- 「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」(33.5%)が最も高く、以下「県(職員)の対応や姿勢に問題があると思ったから(やる気がない、聞く耳を持たないなど)」(19.8%)、「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」(18.9%)などとなっている。

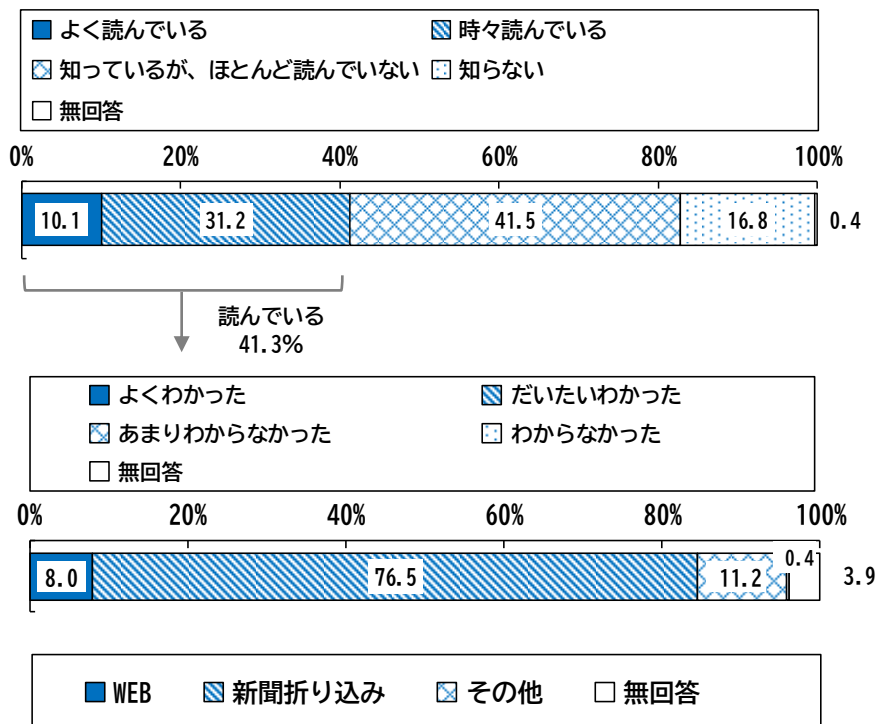


6 広報媒体の浸透度 — 「県民だより」を「読んでいる」人は41.3%

Q6	あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。
SQ	内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)
SQ2	どのような方法で読んでいますか。(○は1つ) ※「県民だより」のみ

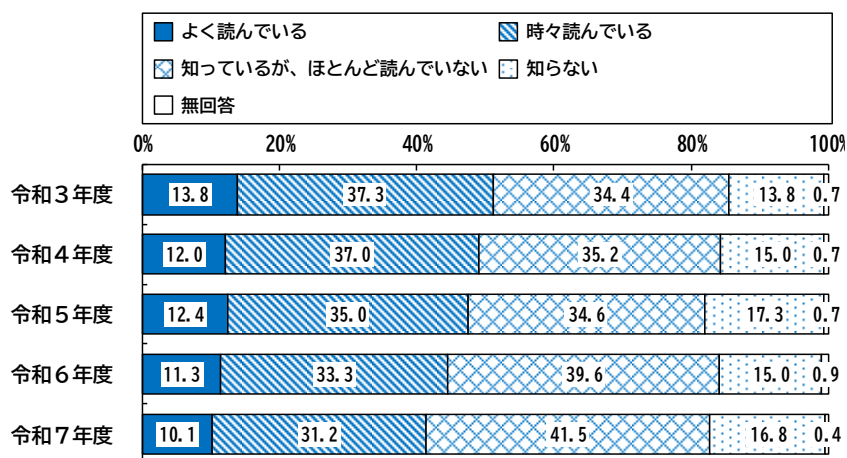
県民だより

- 「よく読んでいる」(10.1%)と「時々読んでいる」(31.2%)を合わせた41.3%は県民だよりを読んでいる。
- 内容について、「よくわかった」(8.0%)と「だいたいわかった」(76.5%)を合わせた84.5%の人がわかりやすかったと回答している。
- どのような方法で読んでいるのかについては、大部分が「新聞折り込み」(74.0%)となっている。



経年比較

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた、読んでいる割合(41.3%)は、令和3年度以降減少傾向にあり、今年度は前年度より3.3ポイント減少している。



静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」(4.2%)と「時々読んでいる」(21.6%)を合わせた25.8%は静岡県議会だよりを読んでいる。
- 内容について、「よくわかった」(4.7%)と「だいたいわかった」(80.7%)を合わせた85.4%の人がわかりやすかったと回答している。

経年比較

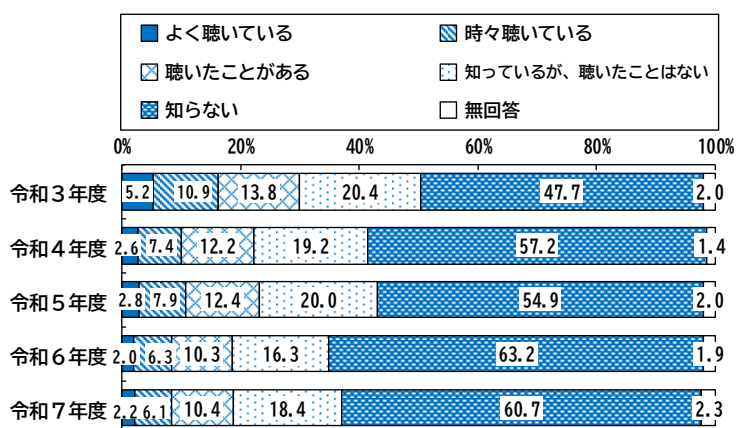
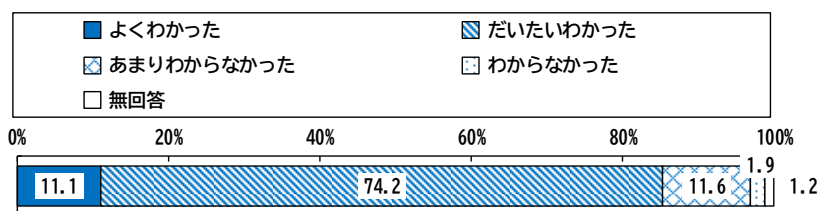
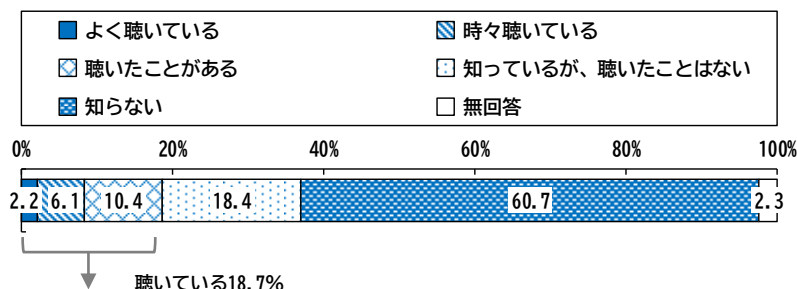
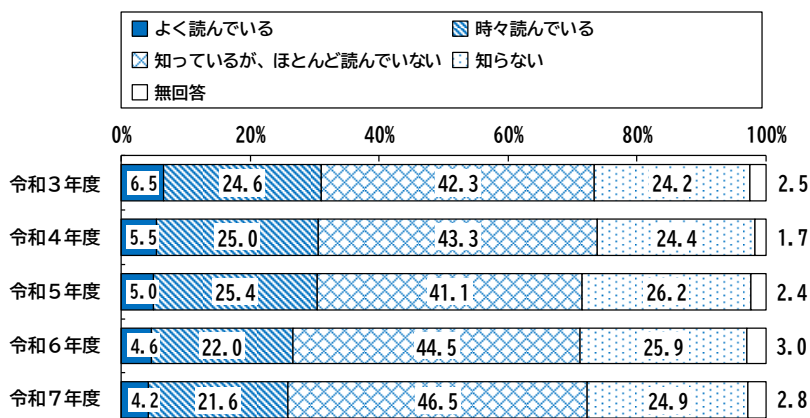
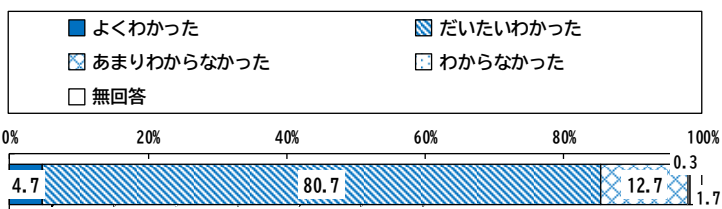
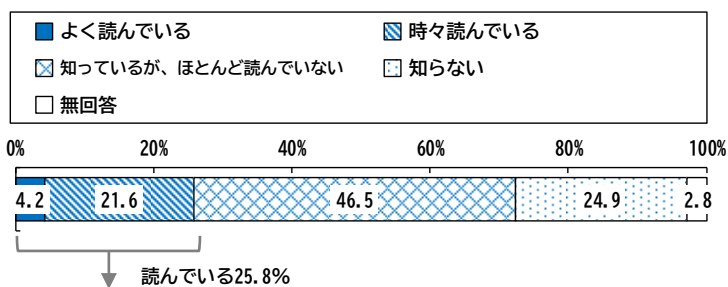
- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた、読んでいる割合(25.8%)は、今年度は前年度に比べ0.8ポイント減少した。
- 読んでいる割合に「知っているが、ほとんど読んでいない」を合わせた認知している割合は、毎年度7割台で推移している。

ラジオ広報

- 「よく聴いている」(2.2%)と「時々聴いている」(6.1%)、「聴いたことがある」(10.4%)を合わせた18.7%はラジオ広報を聴いている。
- 内容について、「よくわかった」(11.1%)と「だいたいわかった」(74.2%)を合わせた85.3%の人がわかりやすかったと回答している。

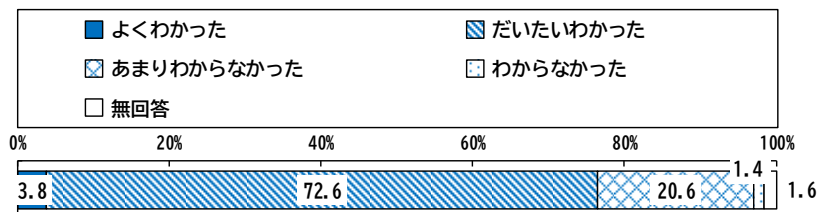
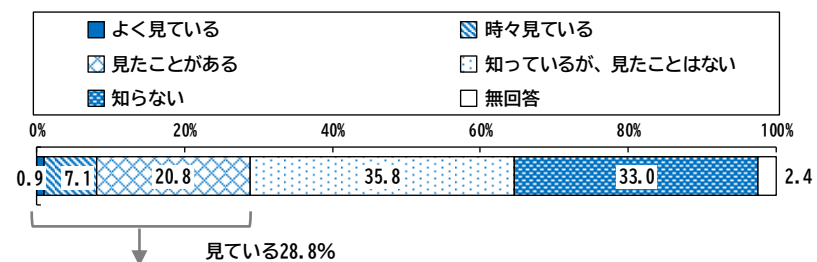
経年比較

- 「よく聴いている」と「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた、聴いている割合(18.7%)は、前年度(18.6%)から0.1ポイント上回っている。



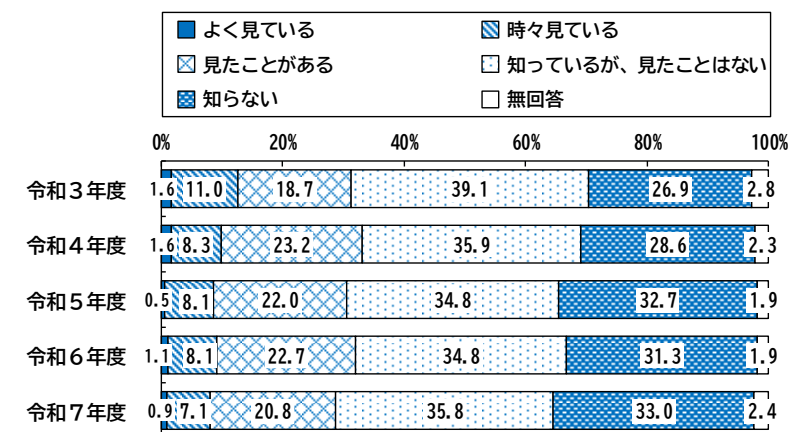
県のホームページ

- 「よく見ている」(0.9%)と「時々見ている」(7.1%)、「見たことがある」(20.8%)を合わせた28.8%は県のホームページを見ている。
- 内容について、「よくわかった」(3.8%)と「だいたいわかった」(72.6%)を合わせた76.4%の人がわかりやすかったと回答している。



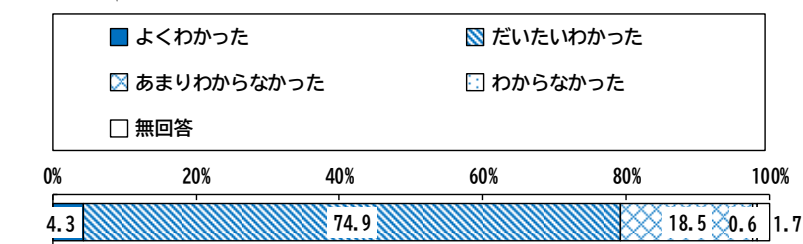
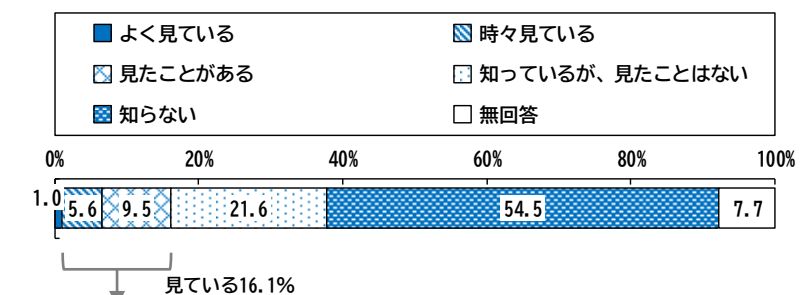
経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合 (28.8%) は、前年度 (31.9%) から3.1ポイント下回っている。



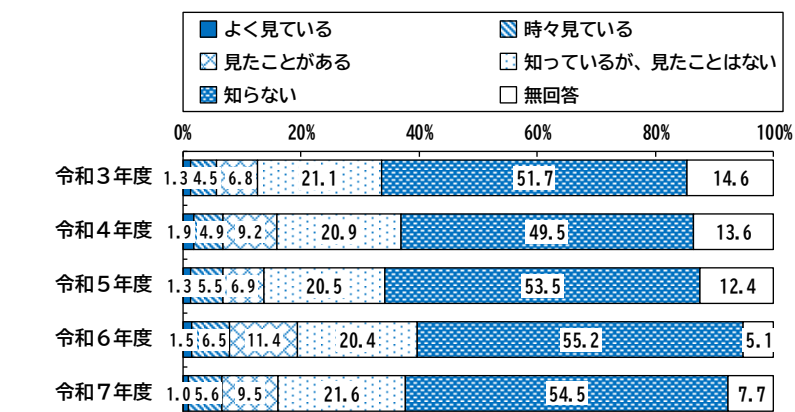
SNS

- 「よく見ている」(1.0%)と「時々見ている」(5.6%)、「見たことがある」(9.5%)を合わせた16.1%はSNSを見ている。
- 内容について、「よくわかった」(4.3%)と「だいたいわかった」(74.9%)を合わせた79.2%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

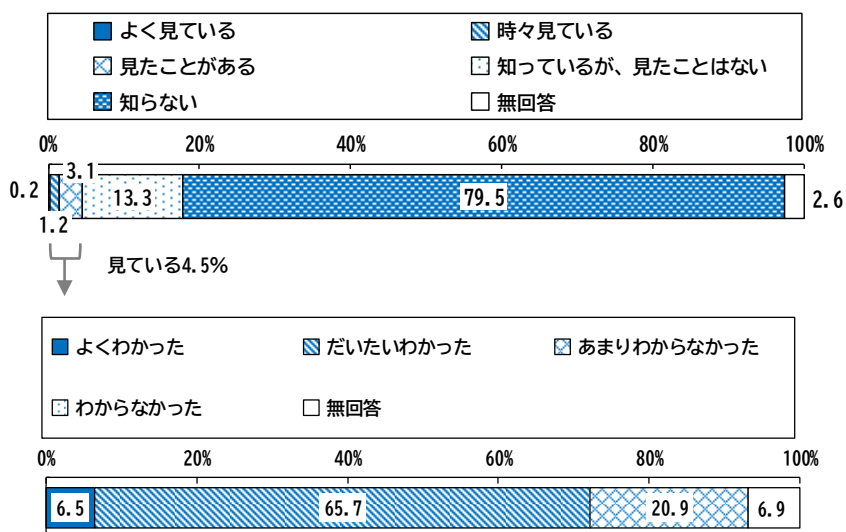
- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合 (16.1%) は、前年度 (19.4%) から3.3ポイント下回っている。



YouTube

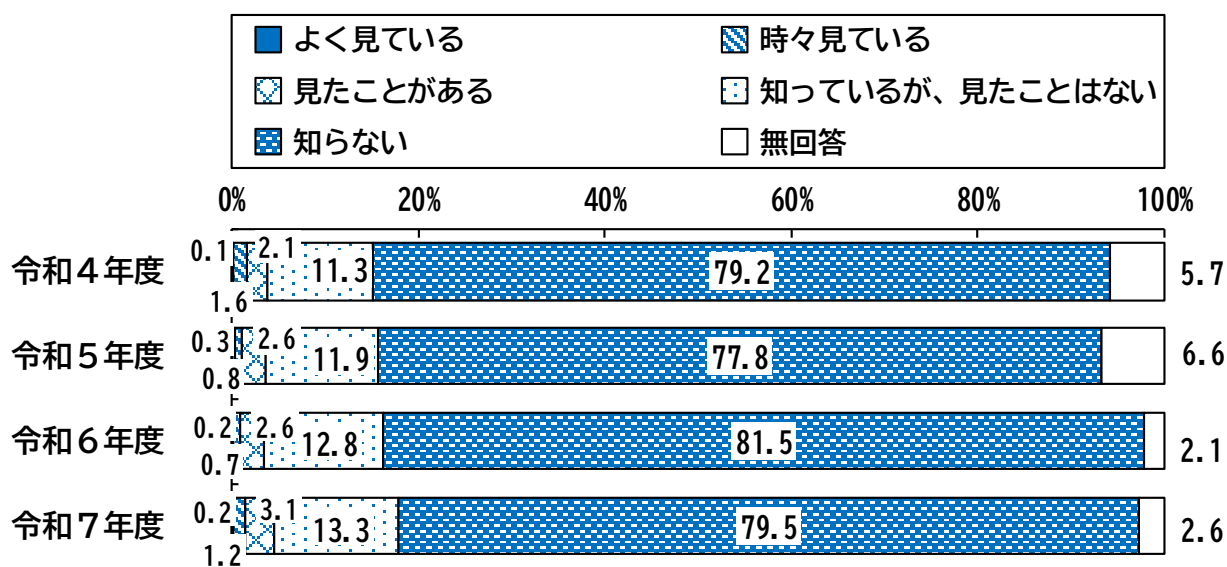
- 「よく見ている」(0.2%)と「時々見ている」(1.2%)、「見たことがある」(3.1%)を合わせた4.5%はYouTubeを見ている。

- 内容について、「よくわかった」(6.5%)と「だいたいわかった」(65.7%)を合わせた72.2%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合(4.5%)は、前年度(3.5%)から1.0ポイント上回っている。



7 日常の課題や生活における意識

Q7

あなたは、日常生活の中で、自分自身を高めるために何かに取り組んだり、自分自身や周りの人を思いやりながら、社会や他の人々のためにできることを行えていると思いますか。(〇は1つ)

※「人づくりのための行動」の例

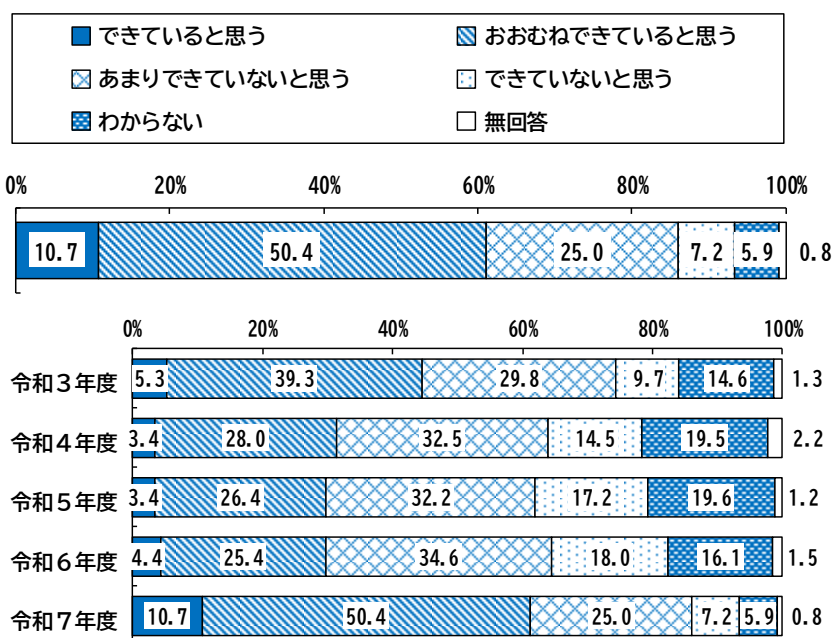
- ・ 色々な体験を積極的にする
- ・ 規則正しい生活リズムを心がけている
- ・ 周りの人に挨拶をする
- ・ きちんとした立ち居振る舞いや礼儀作法を意識する
- ・ 周りの人を大切にする
- ・ 感謝の心を言葉や態度で示している
- ・ 地域の行事に参加するなど人と触れ合う体験をする
- ・ ボランティア活動を行ったり、困っている人に手を差し伸べる など

人づくりのための行動

- 「できていると思う」(10.7%)と「おおむねできていると思う」(50.4%)を合わせた61.1%は自身を“できている”と評価し、「あまりできていないと思う」(25.0%)と「できていないと思う」(7.2%)を合わせた32.2%は自身を“できていない”と評価している。

経年比較

- 令和7年度より設問の表現や用語等の一部修正を加えたため、令和3年度から6年度までの数値は参考として掲載している。



※令和6年度以前については、『あなたは、ご自身が日頃から「有徳の人」としての行動ができていますか。』という設問に対する結果を、グラフに掲載している。

Q8

あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

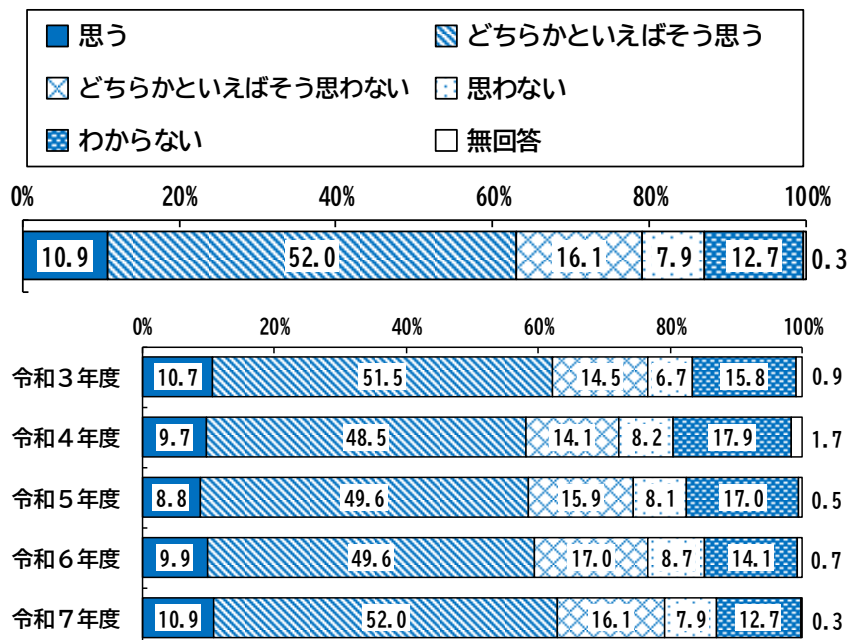
※「地域の絆や支え合い」…地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む、幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

地域コミュニティの活性化

- 「思う」(10.9%)と「どちらかといえばそう思う」(52.0%)を合わせた62.9%は形成されていると思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(16.1%)と「思わない」(7.9%)を合わせた24.0%は形成されていると思わないと回答している。

経年比較

- 形成されていると思う人の割合(62.9%)は、前年度(59.5%)から3.4ポイント上回っている。



Q9

あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

※「子どもをはぐくむ活動」の例

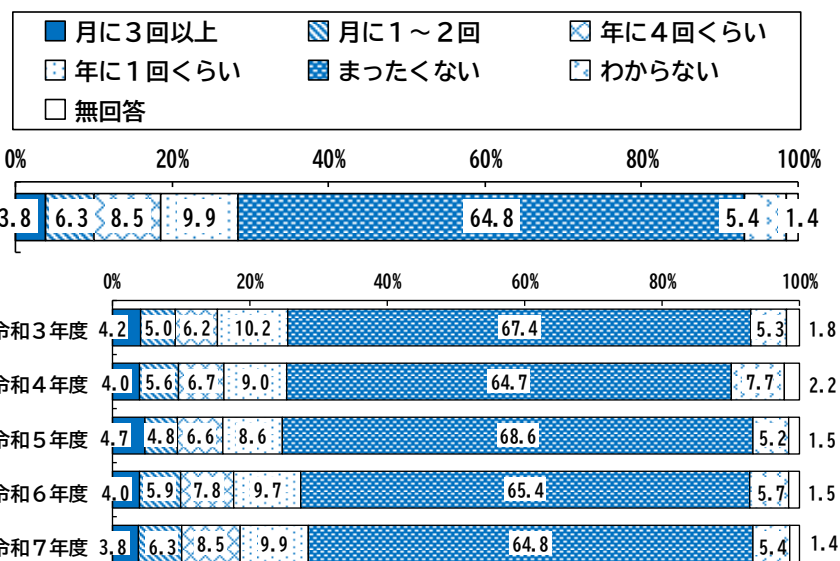
- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動（役員活動だけではなく、保護者やボランティア等としての参加や活動の手伝いも含む）
- ・学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など）

子どもをはぐくむ活動

- 「月に3回以上」(3.8%)、「月に1～2回」(6.3%)、「年に4回くらい」(8.5%)、「年に1回くらい」(9.9%)を合わせた28.5%は子どもをはぐくむ活動をしていると回答しており、「まったくない」(64.8%)の半数以下となっている。

経年比較

- 子どもをはぐくむ活動をしている人の割合(28.5%)は、前年度(27.4%)から1.1ポイント上回っており、過去5年で最も高くなっている。



Q10

あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

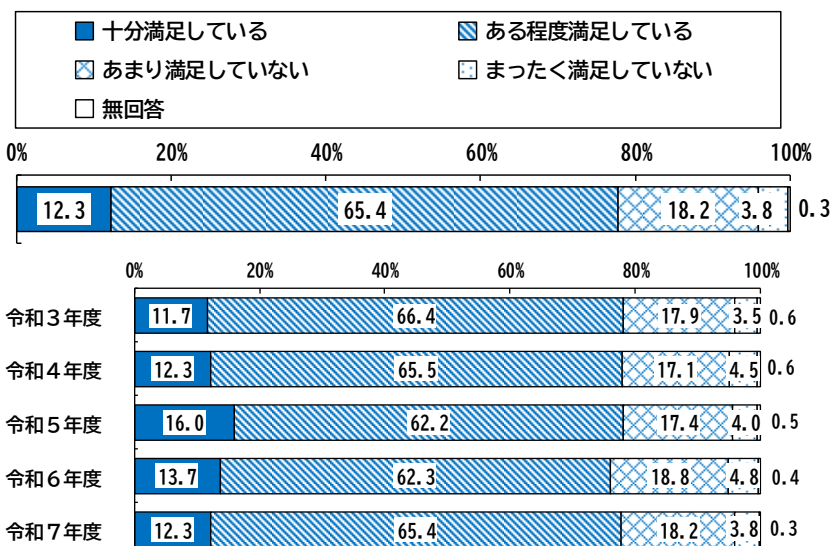
※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

住宅・住環境の満足度

- 「十分満足している」(12.3%)と「ある程度満足している」(65.4%)を合わせた77.7%は満足していると回答している。

経年比較

- 満足している割合は毎年度7割台で推移している。



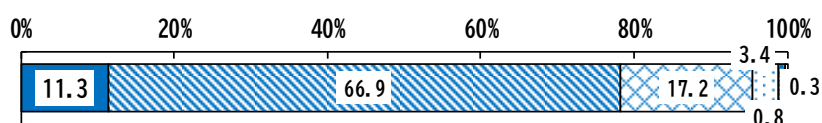
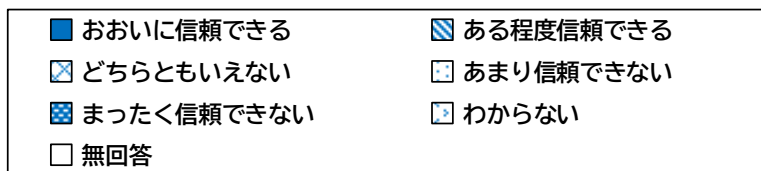
Q11

あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。(〇は1つ)

※「食品の安全性」…農産物など輸入食品の安全性や、遺伝子組換え食品・食品添加物・農薬などの安全性、食品表示自体の信頼性などをいいます。

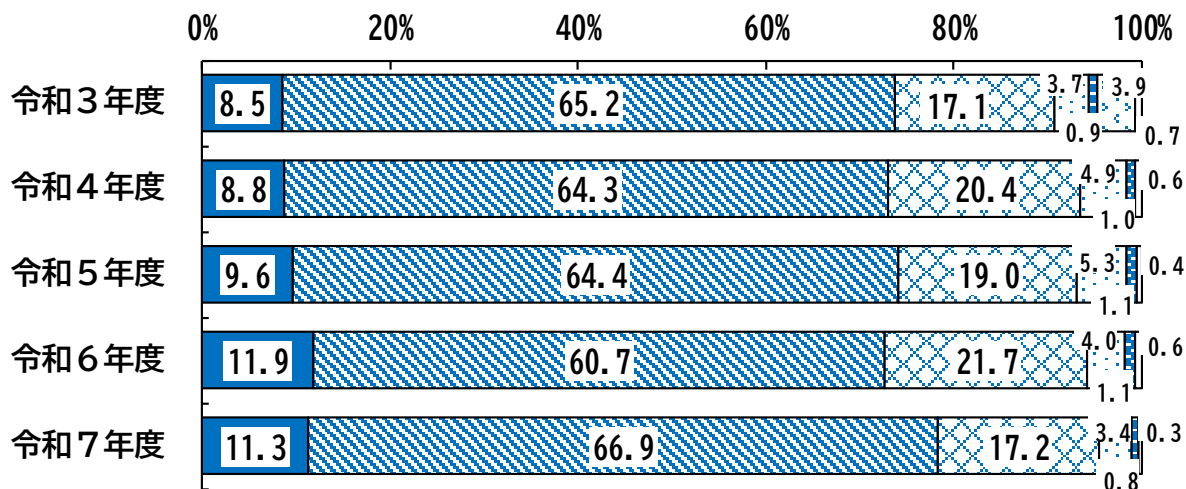
食品の安全性

- 「おいに信頼できる」(11.3%)と「ある程度信頼できる」(66.9%)を合わせた78.2%は信頼できると回答し、「あまり信頼できない」(3.4%)と「まったく信頼できない」(0.8%)を合わせた4.2%は信頼できないと回答している。

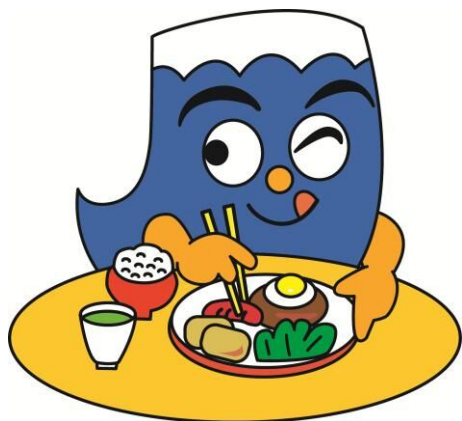


経年比較

- 信頼できる人の割合は、毎年度7割台で推移している。



※令和4年度より選択肢から「わからない」を削除。

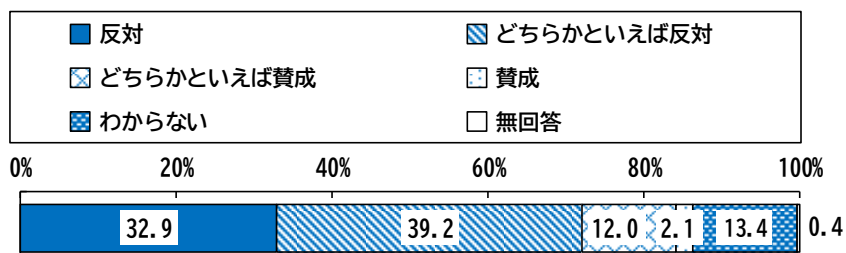


Q12

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

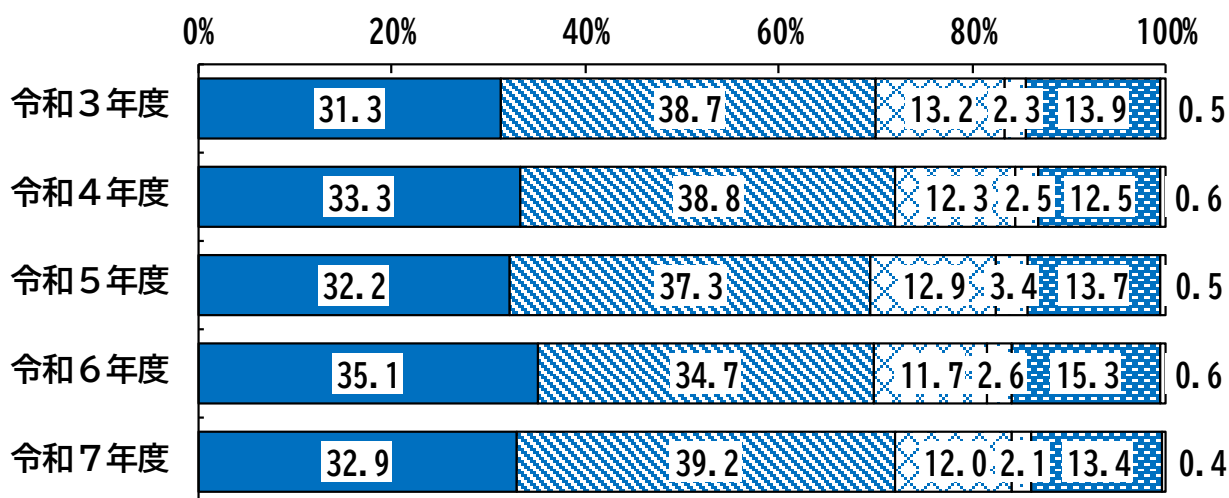
男女共同参画に関する意識

- 「反対」(32.9%)と「どちらかといえば反対」(39.2%)を合わせた72.1%が、男女の役割を固定的に考えることに“反対”と回答し、「どちらかといえば賛成」(12.0%)と「賛成」(2.1%)を合わせた14.1%が、男女の役割を固定的に考えることに“賛成”と回答している。



経年比較

- 「反対」と「どちらかといえば反対」と思う人の割合(72.1%)は、前年度(69.8%)を2.3ポイント上回っている。



Q13

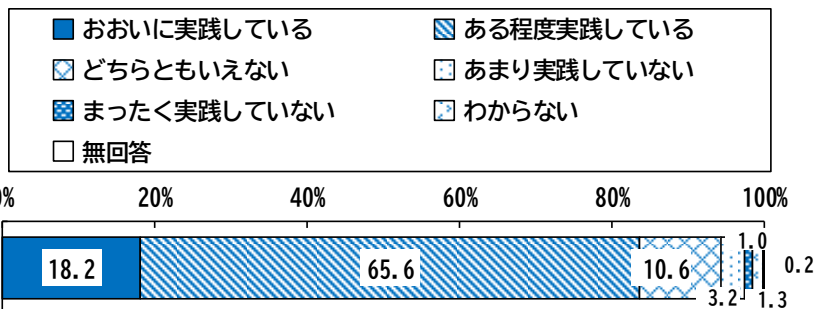
あなたは、環境への配慮を実践していますか。(〇は1つ)

※「環境への配慮」の例

- ・節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

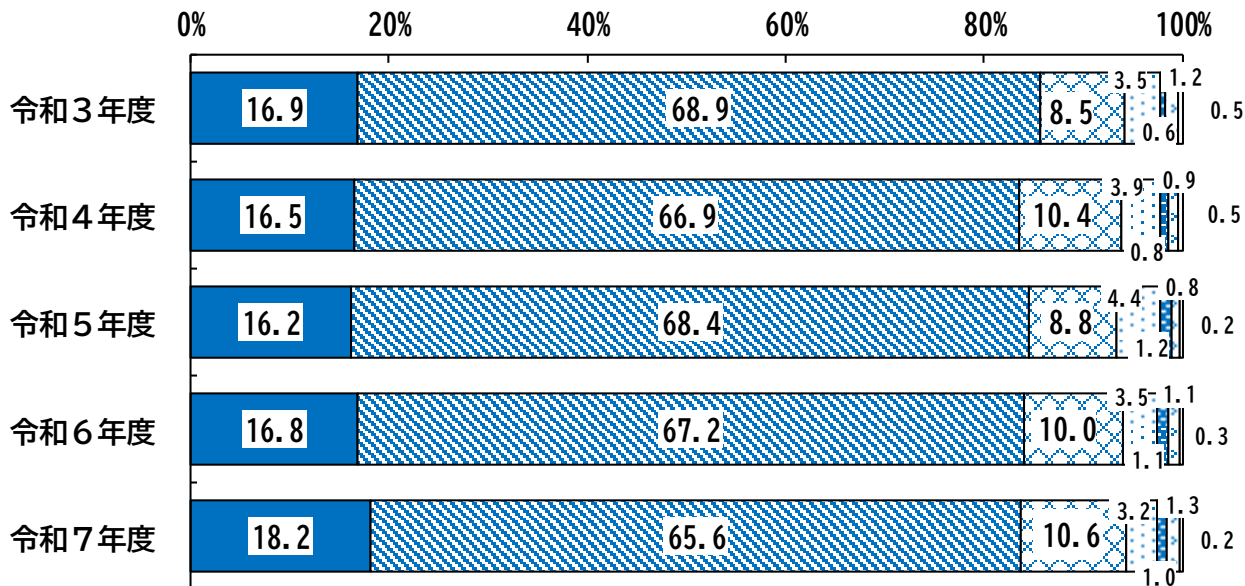
環境保全活動の実践

- 「おおいに実践している」(18.2%)と「ある程度実践している」(65.6%)を合わせた83.8%は実践していると回答し、「あまり実践していない」(3.2%)と「まったく実践していない」(1.0%)を合わせた4.2%は実践していないと回答している。



経年比較

- 実践している人の割合は、毎年度8割台で推移している。

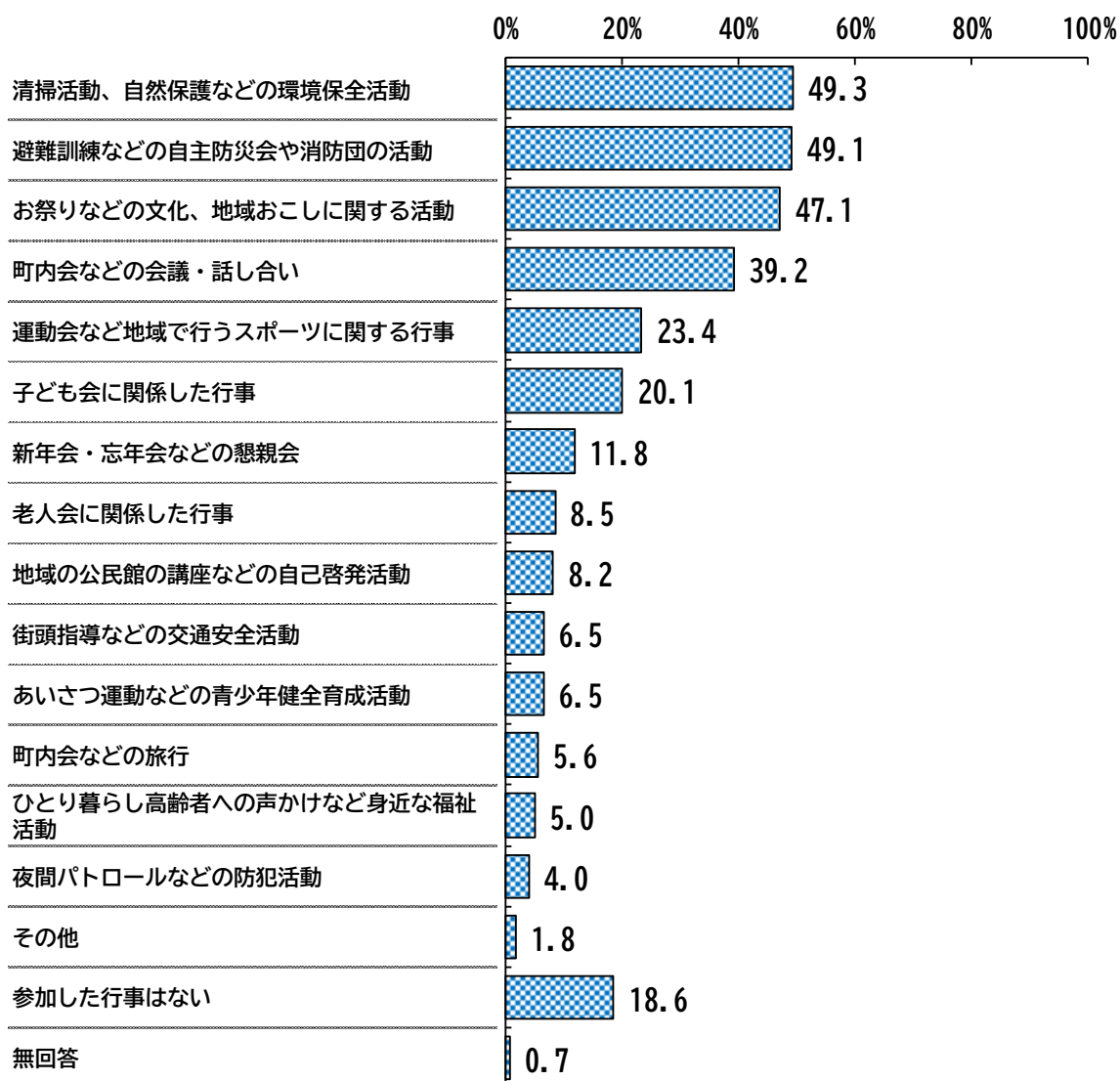


Q14

あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。
(〇はいくつでも)

地域活動への参加

- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」(49.3%)が最も高く、以下「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(49.1%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(47.1%)などとなっている。
- 「参加した行事はない」は18.6%となっている。



Q15

「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

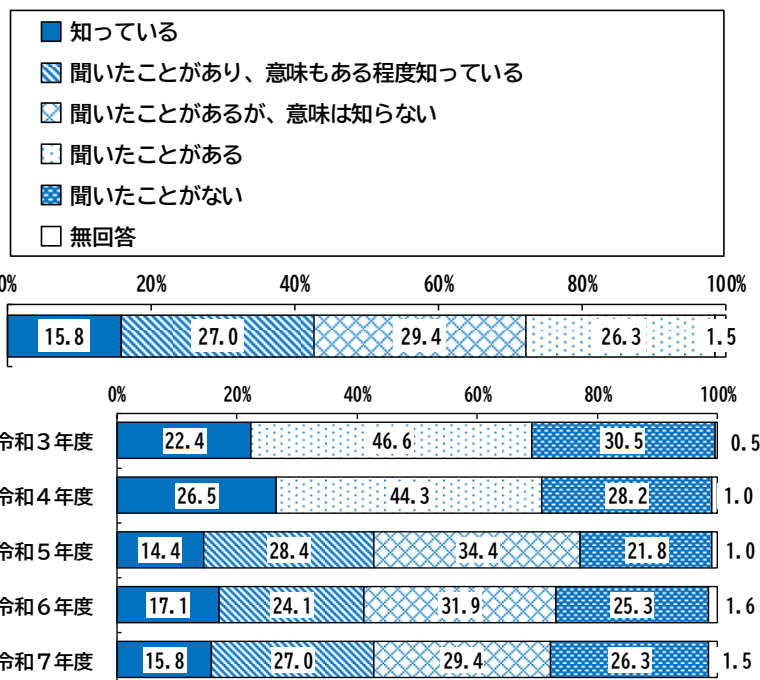
※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

生物多様性への理解

- 「知っている」(15.8%)、「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(27.0%)、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(29.4%)を合わせた72.2%は生物多様性について認知している。

経年比較

- 生物多様性について認知している割合は、令和5年度以降毎年7割台で推移している。



※令和5年度より選択肢から「聞いたことがある」を削除し、選択肢に「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」を新設。

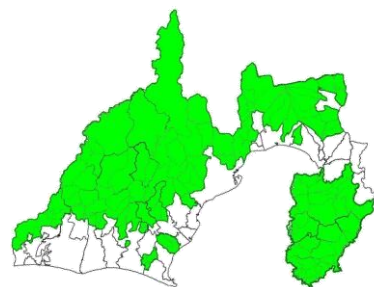


Q16

あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。（中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。）（○は1つ）

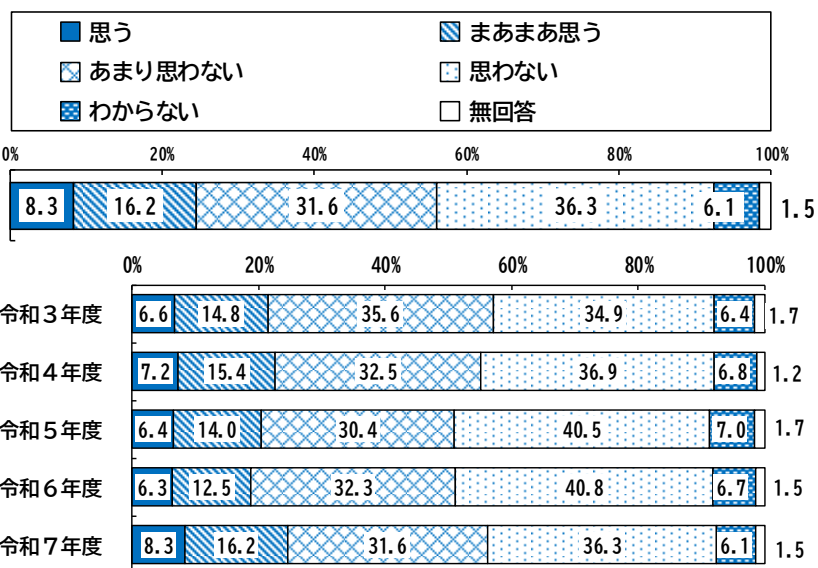
※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、
農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



中山間地域での生活意向

- 「思う」(8.3%)と「まあまあ思う」(16.2%)を合わせた24.5%は住みたいと思うと回答し、「あまり思わない」(31.6%)と「思わない」(36.3%)を合わせた67.9%は住みたいと思わないと回答している。



経年比較

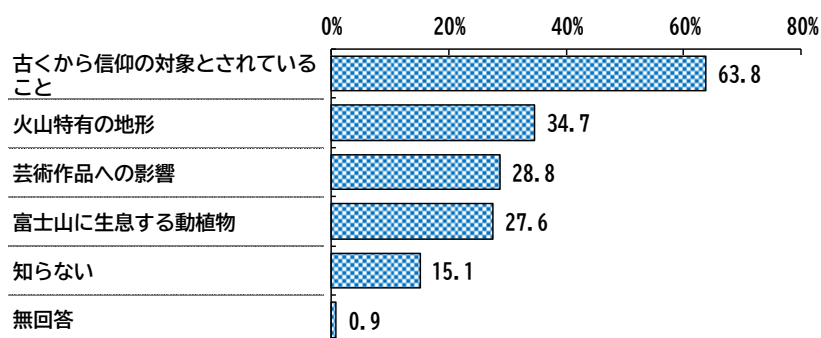
- 住みたいと思う人の割合は、毎年度2割前後で推移している。

Q17

富士山は世界文化遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。（○は2つ）

富士山の世界文化遺産としての価値

- 「古くから信仰の対象とされていること」(63.8%)が最も高く、以下「火山特有の地形」(34.7%)、「芸術作品への影響」(28.8%)などとなっている。
- 「知らない」は15.1%となっている。



Q18

あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。(〇は1つ)

※「文化・芸術」…芸術（音楽、映画、美術、演劇、舞踊等）、芸能（漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等）、文芸（短歌、俳句、詩、小説等）、生活文化（囲碁、将棋、お茶、生け花、手芸等）、お祭りへの参加や見物、文化財（建造物、遺跡、古文書等）を意味しています。

※「鑑賞」…映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

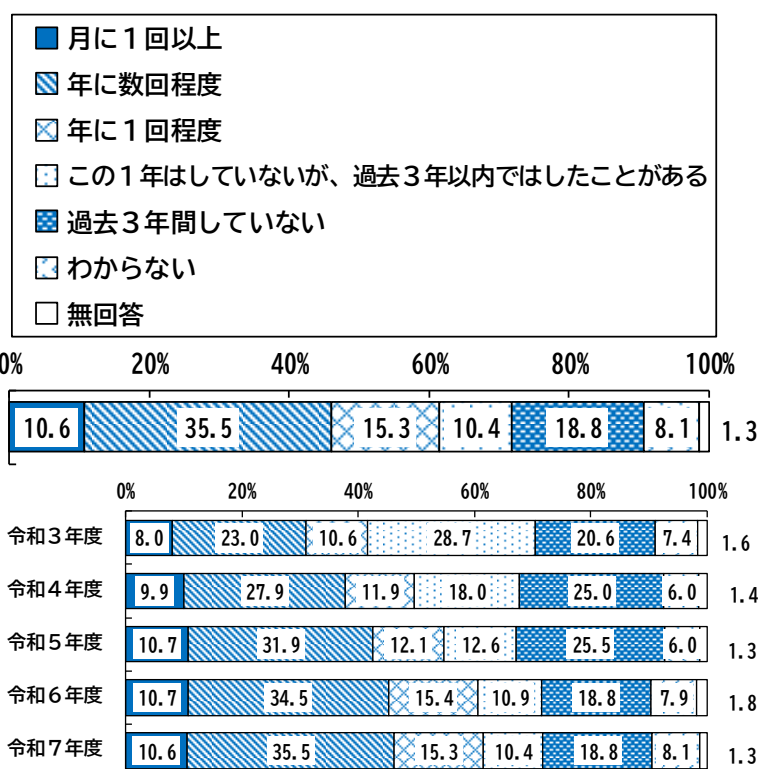
※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」とします。

文化・芸術に関する鑑賞又は活動

- 「月に1回以上」(10.6%)、「年に数回程度」(35.5%)、「年に1回程度」(15.3%)を合わせた61.4%はこの1年で文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしている。

経年比較

- 文化・芸術に関する鑑賞又は活動をした人の割合は、今年度(61.4%)は前年度(60.6%)と比較して0.8ポイント上回っている。



Q19

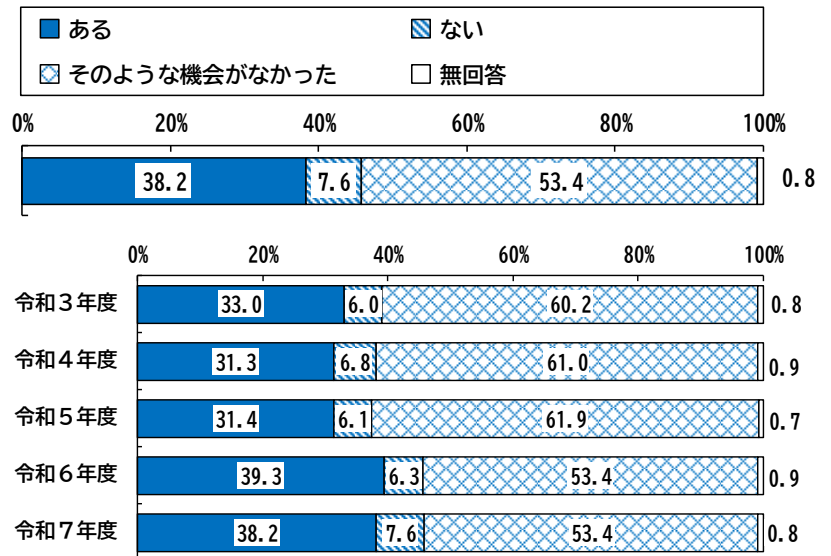
あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

心のユニバーサルデザインの実践

- 「ある」と回答した割合は38.2%で、「ない」と回答した割合は7.6%となっている。
- 「そのような機会がなかった」は53.4%となっている。

経年比較

- 心のユニバーサルデザインを実践している人の割合は、今年度(38.2%)は、前年度(39.3%)に次ぐ割合となっている。



Q20

あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと思いますか。(〇は1つ)

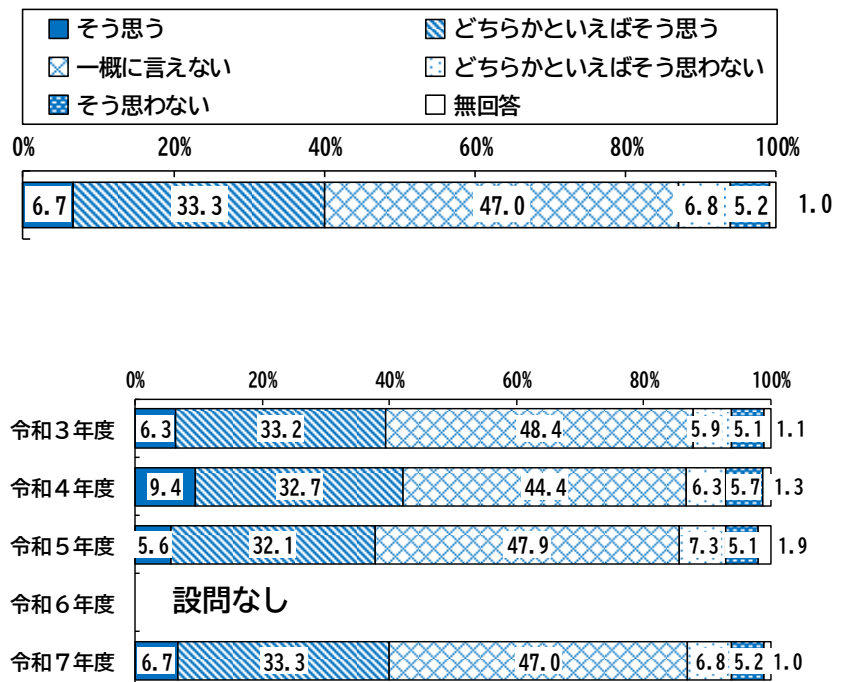
※「人権尊重の意識」… 人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

人権尊重の意識

- 「そう思う」(6.7%)と「どちらかといえばそう思う」(33.3%)を合わせた40.0%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思いと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(6.8%)と「そう思わない」(5.2%)を合わせた12.0%は人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思わないと回答している。

経年比較

人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと思う人の割合(40.0%)は、令和5年度(37.7%)と比較して2.3ポイント上回っている。



主要施策調査

8 次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）に関する意識

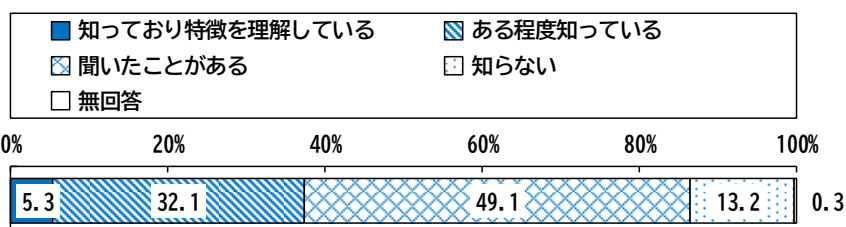
Q21

あなたは、次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）について知っていますか。
（○は1つ）

※次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）とは、空における人の新たな移動手段として開発が進められている航空機的一种。「電動」、「自動」、「垂直離着陸」の特徴を持っている。

次世代エアモビリティの認知

- 「知っており特徴を理解している」（5.3%）、「ある程度知っている」（32.1%）を合わせた37.4%は“知っている”と回答している。



Q22

あなたは、次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）を利用したいと思いますか。
（○は1つ）

SQ1

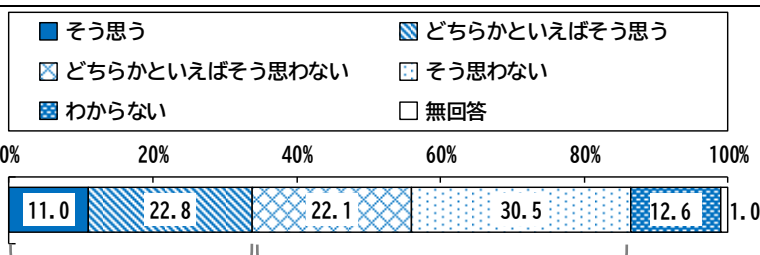
どのような場面で次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）を利用したいと思いますか。（○はいくつでも）

SQ2

利用したいと思わない理由を教えてください。（○はいくつでも）

次世代エアモビリティの利用意向

- 「そう思う」（11.0%）と「どちらかといえばそう思う」（22.8%）を合わせた“利用したいと思う”（33.8%）よりも、「どちらかといえばそう思わない」（22.1%）と「そう思わない」（30.5%）を合わせた“利用したいと思わない”（52.6%）が上回っている。

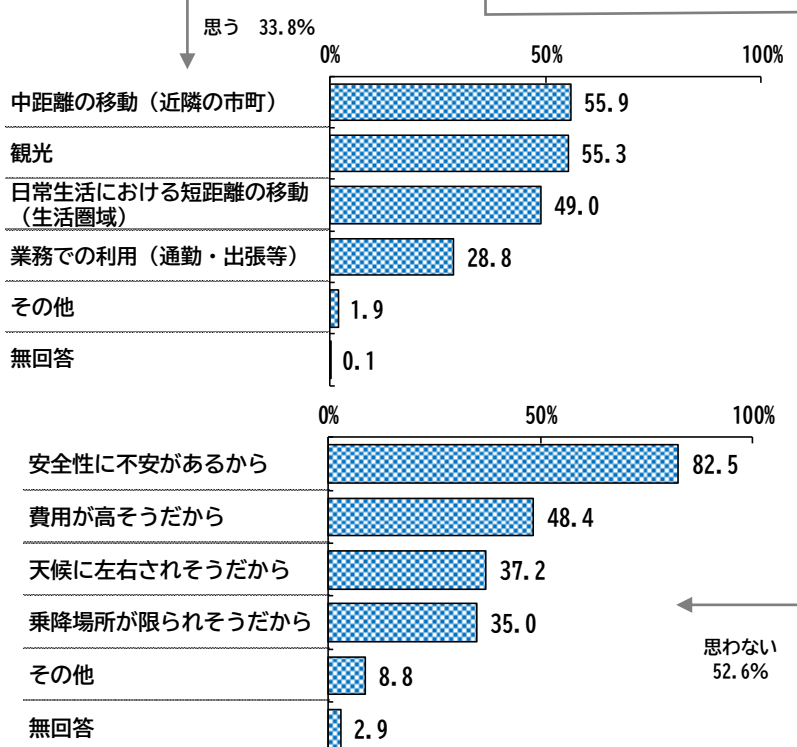


SQ1 次世代エアモビリティを利用したい場面

- 「中距離の移動（近隣の市町）」（55.9%）が最も高く、以下「観光」（55.3%）、「日常生活における短距離の移動（生活圏域）」（49.0%）となっている。

SQ2 次世代エアモビリティを利用したいと思わない理由

- 「安全性に不安があるから」（82.5%）が最も高くなっている。



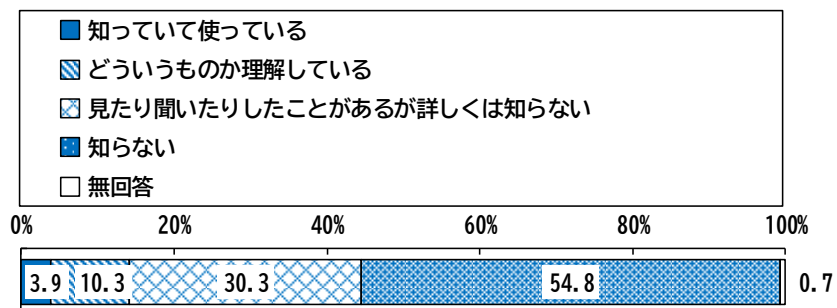
9 多文化共生に関する意識

Q23

「やさしい日本語」について教えてください。（〇は1つ）

やさしい日本語の認知

- 「知っていて使っている」(3.9%)、
「どういうものか理解している」
(10.3%)、「見たり聞いたりしたことがあるが詳しくは知らない」
(30.3%)を合わせた“認知して
いる”が44.5%となっている。



令和7年度
県政世論調査
概要報告書
令和7年11月

編集・発行 静岡県総務部広聴広報課 県民のこえ班
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話 (054) 221-2235
FAX (054) 254-4032
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp

令和 7 年度

静岡県政世論調査

あなたのこえが静岡県政をつくる
～調査にご協力をお願いいたします～



静岡県 総務部 広聴広報課 県民のこえ班 TEL:054-221-2235